

	まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ 全体まとめ		
地区	蒲郡北地区（中部中学校区）	回数	第2回
日時	令和元年8月4日（日） 13時30分から16時30分まで		
参加者数	34名		

1. 課題解決に向けた視点について

■視点ごとの意見

① 地域での活動・交流のしやすさ

外国人が増えているため、外国人にとっての交流という視点も必要ではないか。

- ・ 外国人が増えているので、外国人にとっての地域での交流といった視点も必要ではないか。

蒲郡北部小学校区や中央小学校区は地区の行事への参加は希薄であるように感じる。一方、地区の行事が盛んなところは経済的な負担も大きいと聞くので、住民が無理をするような交流は持続性の面でも問題ではないか。

- ・ 中央小学校区や北部小学校区では、地区行事への参加は全体的に希薄であるように感じている。
- ・ 地区の行事が盛んなところは経済的負担も大きいと聞いている。地区の行事は大切であるが、経済的負担も含め個々の人達が無理をするような交流は持続性も含めて課題ではないか。本来のコミュニティとは相反するのように感じる。

地域の年配の人やボランティアなどが子どもの通学などを見守ることで、年配の人の活躍の場が生まれ、高齢者と子ども達の交流にもつながる。

防災では人のつながりが大事であり、地域の人をつなげるのは公民館の役割である。日常的に多世代が交流できるようなソフト事業を仕掛けられると良い。

- ・ 地域の年配の人が子どもたちを見守るために活躍できると良い。
- ・ 安全安心のために防犯カメラ等を整備するのは維持費も嵩むので適切な策ではない。それよりも、地域のボランティアや通学の見守りをしてくれる人達の協力の下で安全安心対策を行う方が、高齢者と子ども達のコミュニティも生まれて効果的である。安全安心の視点のみならず、単純に高齢者と子ども達の交流を図る機能や場は必要である。
- ・ 防災は人のつながり、知り合いを増やすことが重要である。公民館はそういった地域の人同士をつなぐ役割がある。子ども教室や学びの教室などの試みはあるが、年代を問わず多世代が交流できるような日常的なソフト事業を仕掛けられると良いのではないだろうか。

学区と行政区に不整合がある。地区の行事は学区でまとまると良い。

地域の行事は行政区をもとに行うべきである。

コミュニティの基本は祭りのつながりであり、施設配置の際にはその点を配慮してほしい。

- ・ 中央小の学区内にある大宮神社で行われる行事に西部小の子ども達も参加することがあるが、中央小の子ども達の方が多く、西部小の子ども達は遠慮がちに見える。学区と自治会の不整合であり、地区の行事は小学校区でまとめてもらえるといいのではないかな。
- ・ 地域の行事は行政区をもとに行うべきである。
- ・ 祭りのつながりがコミュニティの基本になっているため、拠点配置においては配慮してほしい。

② 学校教育環境のあり方

小学校の統廃合については、児童数だけでなく、地域性や避難所としての配置、利便性など、総合的に検討してほしい。複合化する際には、学校環境以外の視点からも検討すべきである。

- ・ 小学校単位の地域性があるので、統廃合などを学校の生徒数等できめないで欲しい。
- ・ 小学校等を統廃合する計画を作る際には、単純に人数の多い学校に人数の少ない学校の児童を集めるのではなく、区域全体の中で安全性（避難所）や利便性、アクセスしやすさなどを元に、適切な比較検討を行ったうえで総合的に配置する場所を決めてほしい。複合化とかの視点を入れるのであれば、なおさら学校環境だけでない複数の視点から検討すべき。

西部小学校は児童数が少ないため、役員が頻繁に回ってくる。この点については、大変で面倒くさいと思う人もいるし、仕方がない、やって良かったと思う人もいる。学区の縦のつながりで子どもを見守り、育むという雰囲気の子育てをしている。

- ・ 西部小は役員が生徒1人に対して1回まわってくるので、負担は大きい。
- ・ 少人数学校であるが故にPTAなどの親の役回りが頻繁にまわってくることで大変だという親もいるが、子ども達の為だから仕方がないと考えている親もいる。
- ・ 西部小学校は児童数が少なく、役員について面倒くさいと思う人もいるし、やって良かったと思う人もいる。みんなで作っていきこう、と考えるほうが良いのでは？
- ・ 西部小学校は生徒数が少ないが、それなりに大きな家族のように子供も見守り、育む雰囲気ができている。縦のつながりで子育てをしている。

少人数学校のメリットについてももう少し考えてほしい。少人数でのんびりした学校があっても良いのではないか。また、少人数学校を希望する方のために学区の垣根を越えて越境通学を認めるような制度の見直しが必要ではないか。

- ・ 少人数学校のメリットについてももう少し考えてほしい。人数が増えることでのメリットもわかるが、少人数でものんびり育てられる学校（=のんびり学校）があってもよいのではないか。
- ・ 学区の垣根を越えて市全体で少人数学校を選択できるような仕組みがあってもよい。のんびり学校を希望する人達に向け越境通学も認めるような制度の見直しも必要なのではないか。

学校周辺の道路環境があまり良くない。避難所になることや部活の送り迎えなどを考えると、学校周辺の道路整備が望まれる。

- ・ 現在の小中学校は道路環境（自動車でのアクセス）があまり良くない。避難所にもなるし、普段は部活後の送り迎えもせざるを得ないため、学校周辺の道路整備が望まれる。

③ 子育てしやすい環境づくり

保育園は近くにあった方が利用しやすい。一方、保育園を集約して延長保育や未満児保育などのサービスが向上するのならば、その方が良いという考えもある。これらのサービスを行っている保育園の人気が高いという話も聞く。

- ・ 保育園は近所にあった方が利用しやすい。
- ・ 一方で、保育園を集約化することで延長保育やゼロ歳児受入れなどサービスが向上するならば、その方がよい。
- ・ 中部保育園が人気が高いのは早くから3年保育等を行っていて、共働き世帯のニーズが高かったと聞いている。

小学校の部活動が近い将来なくなることで、児童クラブや児童館のニーズは高まるだろう。

- ・ 小学校の部活動は近い将来なくなる方向と聞いた。その影響で児童クラブや児童館のニーズは高まるだろう。

年齢によって子どもの遊び方が違う。児童館で大きい子と小さい子が一緒に遊んでいると不安なので、年代ごとに分かれて遊ぶことができるスペースがあると良い。公民館が子ども向けのソフト事業を行ったり、公園が遊び場になれば、児童館に集中する子どもを分散できるのではないか。

- ・ ちゅうぶ児童館は良いところだが、小さい子供と大きい子が一緒になると不安がある。異年齢が交流しつつも、ある程度遊び方の違う年代毎に分けられる十分なスペースがあると良い。保育園に入る前、後、小学校低学年、高学年・中学生は遊び方が違う。
- ・ 公民館は子どもが遊ぶイメージがないが、子どものためのソフト事業を積極的に開催することで、遊び場になっていくのではないだろうか。例えば、ゲーム大会、将棋、学び教室などがあげられる。公民館が遊び場になれば、児童館に集中する子どもをある程度分散させることができそうである。
- ・ 吉光会館横の神倉公園の遊具が老朽化により取り壊されたため、子どもの遊ぶ場所が減ってしまったのではないか。

子育てしやすい環境づくりに向けて、市民プールは作るべきである。

- ・ 子育てしやすい環境づくりに向けて、市民プールはつくるべき。

④ 高齢者の居場所づくり

団塊の世代を過ぎると高齢者も増え続けるわけではないので、今後公民館の利用者が増えていくとは考えにくい。仕事を持っている高齢者は忙しく、公共施設を利用する機会も少ない。

- ・ 高齢者も団塊世代が過ぎたらそんなに増え続けるわけではない。公民館の利用者が将来も増えていくとは考えにくい。
- ・ 高齢者でも仕事を持っている方々は忙しく、なかなか公共施設等を利用する機会が少ないという課題がある。

中高年の憩いの場があれば、地域に出やすくなる。退職後にいざ地域活動を始めようとしても、活動がしにくい状況がある。

- ・ 中高年の憩いの場が必要だと考える。特に農業従事者などは定年がないので、中高年の居場所のようなものがあると地域に出やすい。
- ・ リタイヤ世代がいざ地域活動をしようとしてもしにくい状況がある。

高齢者向けの施設に入るには金銭的に厳しい。元気な方の居場所として、遊んだりお話ができる施設が近くに欲しい。近所付き合いもなくおとなしい人も多いので、交流できる機会がたくさんあると良い。

- ・ 高齢者の居場所づくりが急務となっている。民生委員をやっていて、地域の高齢者の悩みを聞く事が多いが、今後施設に入る希望を出される方は多いが、現実的には月に15万はかかるので、金銭的に厳しい。身体が元気であれば、公共施設を居場所に出来ると良い。例えば、寿楽荘のような施設が近くに欲しい。
- ・ 元気なシニアの方々が遊んだり、お話ししたりする場があるとよい。
- ・ 高齢者には、近隣のつながりがなく、おとなしい人が多い。ソフトの仕掛けでなるべく交流できる機会を沢山つくることのできる公共施設だと良い。

多くの高齢者は公民館や地域集会施設へ歩いて通っており、健康体操などの行事はできるだけ地域に密着して開催している。高齢者向けの施設は歩いて通えるところに配置することで利用しやすくなる。

- ・ 公民館や地区集会所の利用状況を見ると、高齢者は歩いて通えるような近所にあることで利用しやすくなる。高齢者の健康体操をできるだけ地域密着で開催している。
- ・ 公民館や地区集会所の利用状況を見ると、高齢者の多くは歩いて通っており、地区の集会施設等は歩いて通えるようなアクセスしやすいところに配置することで利用しやすくなる。ちなみに高齢者の健康体操はできるだけ地域密着で開催している。

図書館やショッピングセンターのイートインのように、目的はなくても気軽に立ち寄れる場所が必要ではないか。児童館のような空調の効いた快適な施設が高齢者向けにあると良い。多目的な施設のほうが多世代の交流につながるのではないか。

- ・ 私見ではあるが、高齢者は図書館を利用して休息していることが多いと感じている。目的を持たないフリーな場（スペース）があるとコミュニティがより多く生まれるのではないか。例えばショッピングセンター（例：フィール）内のイートイン（飲食が可能なスペース）のように気軽に立ち寄れる場の提供が必要。多目的な施設の方が多世代の交流が促進するのではないか。
- ・ ちゅうぶ児童館などはエアコンも効いており、とても快適で高齢者でも積極的に使いたいと感じている。児童館的な場を高齢者向けにも作ってほしい。

⑤ 安全・安心

247号の開通で交通量が増えて危険な状態であるため、道路整備や防犯カメラの設置、交通規制などの対策が必要ではないか。一方、23号バイパスの全面開通などにより今後交通量が減ることも想定して施設計画を行うべきである。

- ・ 247号線が出来てトラックの交通量が多くなり、スピードも出ていて危ない。防犯カメラ等の対策はできないだろうか。
- ・ 公共施設の配置を変える場合は生徒の安全な通学路を確保するために、道路整備や交通規制等の対策を取る必要がある。
- ・ 西部のバイパス道路の交通問題が指摘されているが今後道路が全面開通すると車の流れは変わる。交通量が減れば今ほどの問題はなくなることも想定して公共施設の計画をすべき。

重度障がい者を受け入れることができる福祉避難所は学区内に1か所のみである。災害弱者の避難にも配慮して、公共施設の再編に伴い地域ごとに福祉避難所が整備されると良い。

- ・ 障がい者など弱者の災害避難にも配慮したい。重度障がい者を受け入れられる災害避難場所が現状では中央小学校区に1カ所のみ（みらいあ）。公共施設再編にともない地域ごとに整備されるとよい。

災害時に情報が地域の隅々まで届くか心配であり、情報伝達の仕組みの向上につながるような公共施設の計画が考えられないか。

- ・ 災害時に避難勧告が地域の隅々に届くか心配がある。地区によって部落放送が入らないところもある。一方で、部落放送自体聞き取りづらい面もある。災害時情報発信について、しくみの向上につながるような、公共施設計画は考えられないだろうか。

⑥ 利便性の確保

コミュニティバスなど、公共施設へのアクセスの確保は必須である。一方、アクセスの問題を解決することで公共施設が離れてもある程度は活用しやすくなるのではないか。

- ・ コミュニティバスなど、公共施設へのアクセスの確保は必須である。
- ・ コミュニティ拠点を各地区が身近に欲しいと考えるのは当たり前だが、アクセスの問題を解決することである程度は活用しやすくなるのではないか。

坂本では、車に乗らなくなった高齢者は暮らしていけない。週に数本でいいのでコミュニティバスの運行を考えてほしい。

- ・ 自分は坂本に住んでいる。コミュニティバスが西部で運行が始まるとのこと。うちの地域も何とかしてほしい。小学生が40分かけて小学校に歩いていくのは許容可能としても、車にのらなくなった高齢者は暮らしていけない。週に数本でいいのでバス運行を考えてほしい。

⑦ 将来負担の縮減

施設配置案を考える際に、将来的な予算見込をどのように考慮したら良いか知りたい。

- ・ 案を考える際に、将来的な予算をどのように考慮すればいいのか。

⑧ 運営の改善

施設の利用率を上げるには情報発信が重要である。また、公民館の調理室の利用促進のため、飲食業を巻き込んだイベントなどで利用してはどうか。

- ・ 公共施設の利用率を上げるには、情報発信が大事。
- ・ 調理室の利用率が低いようだが、飲食業を巻き込んだイベントなどで利用することで、利用促進できるのではないだろうか。

地域集会施設は各地域で上手に活用されている。こうした小さな規模の施設の運営がヒントになるのではないか。

- ・ 各地域でお祭りは盛んにおこなわれており、集会所等は上手に活用されている。複合や集約をしても、小さな規模の運営の在り方が、ヒントになるのではないか。

公民館の利用状況は、地区の人口や施設の運営方針の違いによっても異なってくる。北部公民館の利用が多いのは公民館の職員の頑張りによるもので、それは評価すべきと思う。

- ・ 北部公民館のほうが西部公民館よりも利用が多く、子どもの利用もあるのは、そもそもの地区の人口に差があること、あわせて施設の運営方針にも違いがあるのではないか。むしろ、北部の職員さんの頑張りが今の状況をつくっていることを評価すべき。

2. 課題解決のための具体策について

■施設再編の方向性

人口減少を前提に検討をすることに疑問を感じる。市街化調整区域の見直しや農地の規制緩和など、人口増加の手立てや可能性も考えるべきではないか。人口が減らなければ公共施設を減らす必要もない。

- ・ 人口減少に対応するだけでなく、人口増を見据え、30年毎のスパンで考えることも必要ではないだろうか。
- ・ 企業誘致等を行っているにもかかわらず、人口減少を前提にすることに疑問を感じる。
- ・ 農地の規制緩和で住宅開発ができるようにする等の人口増の手立ても同時に考えるべきである。
- ・ 北部小学校区の区画整理事業のように、西部小学校区内の宅地開発も含め、児童数増につながる政策的な可能性についても確認したい（市街化調整区域の見直しなど）。
- ・ 人を増やす。65歳以降も現役で働くので税収は減らない。このため公共施設は減らさないでよい。

現在の公共施設を全て維持できるのが理想だが、難しいことも理解できる。

- ・ 全て現地で建て替えをしてほしいというのが理想だが、それは夢物語と思う。

3つの小学校を統廃合せずに、各小学校に公民館や保育園、児童館を集約していく案も考えられる。

- ・ 3つの小学校を統廃合せずに、各小学校に公民館や保育園や児童館を集約していく再編案も考えられる。

北部地区は区画整理が進んで近年子どもも増えている。昔は中央小学校区に人がたくさんいたが、今は以前ほどの賑わいはない。北部地区の人口の増加も中央小学校区と同様一時的なものかもしれないが、現在人口が増えていることを考えると、北部地区から公共施設をなくすことは考えにくい。

- ・ 北部地区は区画整理が進んできて、近年子どもも増えている。昔は中央小学校区に人が沢山いたが、今は以前ほどの賑わいはない。北部地区の人口の増加も中央小学校区のように一時的なものかもしれないが、現在人口が増えていることを考えると北部地区から学校等の公共施設をなくすことは考えにくい。

■学校の再編

中央小学校は児童数が減る見込みだが、北部小学校や西部小学校は将来も児童数があまり変わらないのではないかと。そういったことも念頭に置くべきである。

- ・ 将来の児童数見込みについて、現在生徒数の多い中央小学校は減る見込みだが、生徒数の少ない北部や西部は意外と将来もあまり変わらないのではないかと。これを念頭におく。

中部中学校と3小学校を全て統合した小中一貫校について検討してはどうか。児童生徒数が多い方が教育環境として望ましいし、効率の良い施設配置ができる。小学校で教科担任制への移行もしやすくなる。

- ・ 中部中学校と3つの小学校をすべて統合した「小中一貫校」も検討できないか。そのメリットは、児童生徒数が多い方が教育環境として望ましい。敷地が共有されるため最も効率のよい施設整備ができる。小学校教育を担任制から学科制に移行する試みなどもしやすくなる。

■児童クラブの配置

北部小学校、西部小学校の児童クラブがちゅうぶ児童館で行われており、子どもも不便で交通事故も心配だ。小学校の敷地内や学校に近い北部公民館や西部公民館に児童クラブの機能があると良い。学校の近くでの配置が難しい場合は、歩道の整備や信号など安全性の強化が必要である。

- ・ 児童クラブは小学校と一緒にあった方が使いやすい。現状のように移動するのは子どもも不便だし交通事故などが心配だ。
- ・ 西部小学校の生徒が中部児童館の児童クラブまで移動している件は児童館職員さんの負担もあるし、交通安全から考えてもよくない。今後、空き教室を利用するなどして、敷地内で児童クラブが運営できるようにすべき。
- ・ 現在の北部小、西部小の児童クラブは、アクセス面で問題があり別の場所にその機能を移転する必要があるのではないかと。例えば、学校に近い西部公民館や北部公民館の場所で児童クラブ機能があるとよい。
- ・ 学校から近い場所に児童クラブ等の配置が難しい場合は、アクセス面での安全性の強化（歩道整備や信号など）は必要である。

■児童館の配置

ちゅうぶ児童館は公園に隣接しており利用しやすい。ちゅうぶ児童館は残してほしいし、こうした施設づくりは今後の児童館の整備でも大切にしてほしい。

- ・ ちゅうぶ児童館は公園と隣接しており、中学生も利用しやすい。今のちゅうぶ児童館は残して欲しいし、今後児童館を整備する際には、こういった作り方は大切にほしい。

3. その他

- ・ 外国人労働者も増えているので、外国の方も話し合いに参加するべきではないだろうか。
- ・ 古くから蒲郡（旧蒲郡町）では、行政と自治会で色々なことを決めてきた。例えば蒲郡公民館についていえば、運営委員会もあり、7人の総代を含め、総代区で物事を決めるべきだった。昨年の蒲郡南地区のワークショップでそういった議論がなかったのはおかしい。
- ・ 市立体育館は駐車場が足りないので増やしてほしい。